



# 結核しずおか

33号2013年9月20日

発行・編集

公益財団法人 静岡県結核予防会  
〒420-0915  
静岡市葵区南瀬名町6-20  
TEL 054-261-2512  
FAX 054-261-9474  
Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp  
HP www.jata-shizuoka.org



祝世界文化遺産登録

## 巻頭言

平成21年8月に静岡県立こども病院より静岡県熱海健康福祉センター・熱海保健所に赴任し5年目になります。着任早々いきなり賀茂・熱海感染症診査協議会に出席し、高齢者特に80歳以上の重症肺結核患者が多いのには驚きました。特に私の場合小児専門病院で長年勤務していた為結核患者を診る機会もなく、40年以上の臨床経験がある医師でありながら、結核は既に過去の病気という誤った考えをもっておりました。その私が平成22年より静岡県保健所長会を代表しまして結核予防会の理事、評議員を勤めさせていただくことになり、初めて結核予防会が、結核予防週間におけるキャンペーン活動、複十字シール募金活動を通して、住民に対して結核の正しい知識の普及啓発を行っていることを知りました。平成23年度の募金総額約3億500万円の内、約1,388万円が静岡県結核予防婦人会による募金で、県別では静岡県が1位となっていることも知りました。

わが国の結核罹患率は人口10万人あたり17.7人と欧米諸国に比べ高く中まん延国に位置しています。今でも1日あたり64人の新たな患者が発生し、6人が命を落としている日本の重大な感染症です。今後10万人当たり10人以下の低まん延国の仲間入りをするためにはハイリスクグループ毎の対策、即ち高齢者や高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病、喫煙者、接触者検診による潜在性結核など個別の対応が必要となります。実際結核患者の中にはタバコを吸い、生活習慣病を抱えている方が非常に多い傾向がみられています。

わが国における結核の問題点を6つあげますと1)若い世代の集団感染、2)働き盛り世代の結核診断の遅れ、3)外国人の若者の結核が増えている、4)患者の高齢化(80代)、5)地域格差(大都市部に集中)、6)HIV/AIDSとの合併などがあげられます。

熱海・伊東の二次医療圏すなわち熱海保健所管内におきましても、平成24年中の新規結核患者数は27人にのぼり高まん延状況にあります。年齢構成をみますと、60歳以上の方が21人で約8割を占めております。高齢化が進み昨年の2割高となっています。この要因としましては60歳以上の方は日本に結核がまん延していた時代に、幼少期、青年期を過ごされ、その頃に結核に感染した可能性が高く、高齢にともない免疫力が弱まったり、体力が低下することによって、発病したものと考えられています。

結核撲滅には、他の疾患同様「早期発見・治療」が何よりも大切なポイントです。そのためには人々に「結核は誰でも感染・発病する恐れのある病気であること、早期発見、治療により治る病気であること等、正しい知識の普及はもとより、生活習慣病対策、禁煙、受動喫煙防止、健診の受診勧奨、有症時の早期診断等が大変重要になります。これには結核予防会の更なる活動、啓発運動に期待が寄せられるところです。

こうした観点より結核対策における保健所の役割を挙げますと1.登録、2.サーベイランス、3.疫学調査(接触者検診)、4.管理検診(治療終了・中断)、5.入院勧告(就業制限)、6.患者支援(地域DOTS推進・訪問・面接)、7.定期健診への技術支援(小・中学校)、8.予防接種(BCG)、9.普及啓発(結核の正しい知識・禁煙指導・受動喫煙)など多岐にわたります。これらを遂行していくためには保健所として更に機能強化を図る必要を感じています。その為には結核予防会の協力が欠かせません。今後とも宜しくご支援、ご協力をお願い致します。



静岡県熱海健康福祉センター所長

兼 熱海保健所長 三間屋 純一

# 結核の今⇄昔

『結核』と聞いて、みなさんは何を想像しますか…？

『昔の病気…』『今は治るんでしょ？』『感染するんだよね…？』などなど…

様々なイメージがあるとは思いますが、専門的な方以外で、正しい知識・明確な答えをもっている方は少ないのではないのでしょうか。

結論から申し上げますと、『結核』は決して『過去の病気』ではありません。今現在も、わが国は『結核の中まん延国』であり、『最大の感染症』であり、『現在進行形の病気』なのです。

この最大の感染症をこれ以上広めないためには何が必要か…？ひとつに、『結核に対する正しい知識の普及』があげられます。『無知』が新たな感染源になっているともいえるかもしれません。

今回は、『結核の歴史』を考察することにより、『結核』に対する知識をより深めましょう!!

## 結核っていつからあるの…？

そもそも…『結核』はいつからあるのでしょうか…？

結核の歴史は人類の歴史とともに古く、紀元前3500年頃のエジプトのミイラにその跡を見ることができます。

しかし、その原因は長らく不明であり、遺伝病とされていた時期もありました。

世界的に、大流行し始めるのは、18世紀、欧米を中心とする産業革命の頃です。

日本では、弥生時代より存在していましたがやはり、大流行するのは、産業革命の進んだ明治時代後半と太平洋戦争時です。

結核は、急激な社会の都市化による生活環境の悪化と共に流行してきたのです。

## 結核で命を落とした有名人

日本において、結核で亡くなった方には、どんな方がいるのでしょうか…？

大流行していた、幕末～大正時代においては、次の方々が挙げられます。

中には、現在では、ありえないような若い年齢で亡くなられている方もいます。

『不治の病』であった結核。若い命をも簡単に奪う…それほど、『結核』は恐ろしい病気なのです。

現在、『治療可能な病気』ではありますが、放っておけば…知らなければ…治療できるものもできず、この方々と同じ運命をたどる方もいるかもしれません。

『恐ろしい病気』であることは、昔も今も変わらないのです。

高杉晋作（幕末の志士／27歳）  
沖田総司（新撰組隊士／27歳）  
陸奥宗光（政治家・外交官／53歳）  
正岡子規（俳人／34歳）  
樋口一葉（作家／24歳）  
清原太郎（音楽家／23歳）  
石川啄木（俳人・歌人／26歳）  
竹下夢二（画家・詩人／49歳）  
…など  
（職業および享年）

## 結核菌の発見

1882年にドイツのロベルト・コッホにより、『結核菌』が発見され、遺伝による病気ではなく、感染症であることが明らかにされます。

コッホが、『結核菌』発見を発表した3月24日は、『世界結核デー』とされ、現在でも、『結核』について考える日となっています。

1905年、結核に関する研究の業績よりノーベル生理学・医学賞を受賞しています。

## 特效薬の誕生

コッホの発見から30年間で『結核』は劇的な改善を遂げます。1890年の『ツベルクリン』開発は診断薬として有効であり、その後の『BCG』の接種法開発、これは、1921年より実用化され、予防が強化されました。また、1944年には、特效薬とされた『ストレプトマイシン』が開発され、結核は不治の病ではなくなります。



ロベルト・コッホ  
(1843-1910)

## もっと詳しく知りたい!



公益財団法人結核予防会より刊行されています。

・『結核対策史』(平成16年5月発行) 定価945円(税込) ISBN4-87451-220-8

・『結核を病んだ人たちの心』(平成16年11月発行) 定価1,260円(税込) ISBN4-87451-224-0

お問合せは… 公益財団法人静岡県結核予防会  
TEL:054-261-2512 FAX:054-261-9474

## 結核の記憶・清瀬

東京都・清瀬市、埼玉県との境に位置する緑豊かな静かな街です。ここは、昭和初期から昭和30年代にかけて、集中的に結核の療養所が作られた地域です。

その当時、この地で、多くの患者が『結核』の治癒を願い、辛い療養生活を送っていました。

猛暑の続く、夏のある日、清瀬市を訪れてみました。

まず、訪れましたのは『清瀬中央公園』

ここは、昭和6年、当時、無医村であった清瀬村に初めて開設された結核療養所である『東京府立清瀬病院』の跡地です。現在は、「ここに清瀬病院ありき」という記念碑が残っています。

この病院を始めとし、結核が死に至る病であったころ、この地には、この病院以外に、15もの結核療養所が存在し、多いときには、全国から5,000人ももの入院患者が療養していました。

清瀬は、結核治療のメッカといわれるようになります。

現在、『結核』は不治の病ではなくなりましたが、世界の結核学者で、清瀬の名を知らない人は少なく、ここは、これまでの、結核治療研究の歴史の出発点ともいえる場所です。



つぎに、ご紹介いたしますのは、『外気舎記念館』

これは、昭和初期、結核患者が、その当時主流であった結核の治療方法の一つ、清浄な空気を吸うことによる外気療法を行った小屋です。

現在は、独立行政法人国立病院機構東京病院(旧国立療養所東京病院)内に1棟のみ現存していますが、当時は、このような小屋が、72棟扇形に建設され、1棟に2人ずつが入り、療養していました。

昭和14年から昭和41年まで使用されており、満員時には140名もの患者がこの場所で、入舎生活をしていました。



この、外気舎にて行われていた、具体的な治療方法についても書いてありました。

外気舎のすぐ横に、『出発点』と示された石杭があります。

当時、ここは、『結核』から社会復帰するためのリハビリテーション施設であり、それは、A歩行療法、B作業療法、C補導療法と順を踏んで社会復帰を目指すものでした。

これは、そのA歩行療法の目印となる杭です。

外気療法を行っていた患者は、この『出発点』から、それぞれ決められた距離を歩き、歩行前後の脈拍を記録、1日100m往復から1km往復まで距離をのび卒業、次の段階に進むという慎重なものでした。

# 歩いてみました



当時も、このように歩いていたんですね!



清瀬市は、歴史柄、現在も、各種病院が立ち並ぶ場所です。酷暑の中ではありましたが、緑も多く、閑静な雰囲気でした。その当時も、このような環境であったと想像できますが、結核患者の過酷な生活状況や社会復帰をめざすひたむきさに思いをはせることができました。

(近藤みのり)

# 複十字シール運動に ご協力をお願いします



運動期間 8月1日～12月31日

## 大須賀副知事を表敬訪問



8月1日の複十字シール運動開始にともない、静岡県結核予防婦人会土屋貞代会長と当会の小野寺理事長・築瀬常務理事は大須賀副知事に表敬訪問を行いました。

小野寺理事長から、この複十字シール運動は、結核や肺がんなど呼吸器系の疾患をなくして健康で明るい社会を作るため、これらの病気に対する知識の啓発と予防意識の高揚を図るとともに、事業資金を集める活動と伝え、また、わが国の結核の現状は、平成23年中に新たに結核患者として登録され

た人は22,681人で、人口10万人当りの罹患率は17.7と、世界の中では依然として結核の中まん延国として位置付けられ、同年に静岡県内で64人が結核が原因で死亡している現状を説明し、警戒を怠ってはいけないと訴えた。

大須賀副知事からは、「こうした活動はまだ県民に浸透していないので、1人でも多くの人たちに理解が広まるといいですね。」とお言葉をいただきました。

県内各地にて、静岡県結核予防婦人会や県・市・町と協力して複十字シール運動を展開して参りますので皆様、ご協力をお願いいたします。

## 静岡県募金目標額 1,450万円



公益財団法人結核予防会が実施します複十字シール運動(結核などの胸の病気を制圧するため、複十字シールを媒体として全国統一して募金活動を行う運動)に静岡県は1,450万円を目標に実施します。

皆様の温かい善意の募金は、結核予防思想の啓発活動、発展途上国の結核対策援助等の緒事業に充当させていただきます。

今年も複十字シール募金へのご協力をお願いいたします。

### ご送金方法について

< 口座振込 >

① 郵便振替

名古屋 00880-4-34116

② 銀行振込

静岡銀行 瀬名支店 普通 381964

スルガ銀行 東静岡支店 普通 1450908

### 寄付金控除について

公益財団法人結核予防会は【特定公益増進法人】として認定を受けましたので、ご寄付をくださった場合、税法上の優遇措置があります。

① 法人の場合

法人税法の優遇措置があります。

② 個人の場合

今年中に指定法人にご寄付された金額が、本件を含めて二千元を超える場合、その超えた金額が今年の所得から控除されます。ただし、年間所得の40%までの額とされます。

### DOUBLE-BARRED CROSS SEALS 2013

JAPAN ANTI-TUBERCULOSIS ASSOCIATION



複十字シール

みんなの力で結核や肺がんをなくすために  
複十字シールは世界共通の結核予防運動の旗印です

デザイン:安野文雄

公益財団法人結核予防会

公益財団法人静岡県結核予防会

電話: 054-261-2512(代)

URL: <http://www.jata-shizuoka.org>

【主催】公益財団法人結核予防会

URL: <http://www.jatahq.org>

# 結核予防週間

平成25年9月24日(火)～30日(月)



わが国の結核の現状は、平成23年中に新たに結核患者として登録された人は22,681人で、2,162人が亡くなっており、世界の中では依然として結核の中まん延国として位置付けられていることから、引き続き十分な注意が必要です。

今年の結核予防週間は、「胸に空洞!?失恋ですか?—いいえ、結核です」をスローガンに実施します。この一週間を、「結核の制圧」に向けて、国民一人一人に理解と協力が得られるように知識を深め、結核対策の推進に一丸となって取り組むことが必要であります。



## 普及・啓発イベント実施のお知らせ

- 9/22(日) 10:00～14:00 富士市2013健康まつり 富士市フィランセにて
- 9/28(土) 13:00～15:00 結核予防週間キャンペーン アピタ静岡店
- 10/12(土) 13(日) 静岡元気応援フェア13 ツインメッセ静岡
- 11/17(日) 富士宮中央公民館まつり

※ 各地の健康まつりやイベントにて普及・啓発活動を実施中



●県・各市町の健康まつりなどで、当会職員の参加(普及啓発活動・追加住民検診)、各種パネルやシールぼうやの着ぐるみを貸し出しています。→お問い合わせは、総務課 鈴木まで

## 旬の簡単健康レシピ

### ～ジャガイモとニンジンのきんぴら～



材料(2人分)

- ・ジャガイモ 2
- ・ニンジン 1/2
- ・麵つゆ 適量
- ・砂糖 適量
- ・油 適量

(206kcal)



手順

- 1 ジャガイモとニンジンを千切りにする
- 2 鍋に油をひき、ジャガイモとニンジンを加え炒める
- 3 全体に油が回り、ジャガイモが透き通ってきたら、麵つゆ、砂糖を加える
- 4 煮つめたら完成



秋と言えば、「食欲の秋」です。最近は何れが季節の野菜なのか、はっきりわからない方もいるでしょう。旬の野菜は美味しいだけでなく、栄養価も高いので、なるべく旬の秋野菜をたっぷり食べて、健康になりましょう。ジャガイモには、カリウム・ビタミンC・B1・食物繊維、ニンジンには、ベータカロチン・カリウム・鉄分が含まれています。



文：大石恵子



# なぜ・なぜ・なあに

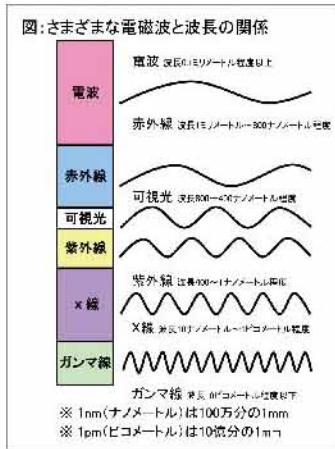


## ～ さまざまな電磁波の話 ～

「電磁波」って、一体、何でしょう…?

何だか、難しい話に聞こえてしまうかもしれませんが、実は、私たちの生活に密接に関わり合いがあり、生活空間にあふれているものなのです。

電磁波は、名前が示すように「電気」と「磁気」です。電磁波とは、電場と磁場の振動が波となって空間を広がっていく現象をいいます。そして、様々な種類があり、その波長に長いものと短いものがあります。この波長、「周波数」と呼ばれることもあります。この言葉は聞いたことがある方が多いでしょう。周波数とは波がブルブルと振動する早さであり、波長の長いものは振動数が低い電磁波であり、波長の短いものは振動数が高い電磁波になります。



### ◆波長が長く、振動数の低い電磁波

電波 TV・ラジオ・携帯電話などの放送・通信に使用。

赤外線 対象物に熱を与える効果があり、暖房や調理器具や防災や防犯センサーなどとして使用。

可視光線 太陽やそのほか様々な照明から発せられる光線。

紫外線 太陽光の中に存在し、物体に吸収されると化学反応(日焼けなど)を引き起こしやすい光線、また、殺菌消毒、ビタミンDの合成、生体に対しての血行や新陳代謝の促進などの作用がある。



### ◆波長が短く、振動数の高い電磁波

X線 レントゲン撮影・放射線療法に使用。

ガンマ線 癌(がん)の治療や材質検査などに使用。



波長の長い電磁波は、みなさん、日常的にふれあう機会や耳にすることはありますが、波長の短い電磁波は、物体の内部を通り抜けることができ、この現象を透過と言ひ、この性質を利用し、胸部や胃部検診のX線(レントゲン)撮影など医療の場で診断に大きく役立てられています。(渡井雅文)

## 出版のご案内

結核を中心とする疾病の予防に関する正しい知識を広く県民の方に普及するために、公益財団法人結核予防会が編集・出版している専門書やパンフレットなどの案内をしております。



◆平成25年8月30日発刊◆

「保健師・看護師の結核展望101号」 B5判 定価1,995円(税込) ISSN1347-4553

◆結核に関する新情報、DOTSのこと、研究、動向、調査、業務等をすべて網羅しております。日々の業務に欠くことができない雑誌です。定期購読を利用することができます。

今の特集 ①潜在性結核感染症(1) ○治療指針と活用について  
②患者を中心とした地域連携 ○通院患者の支援ならびに入院中の他職種によるサポートチームの支援を紹介。

◆地域の結核予防活動配布資材にお役立てください!◆

一般向け啓発パンフレット「結核の常識2013」

結核に関する基礎知識をわかりやすく掲載しております。結核の基礎知識を身につけ、結核のない明日を作りましょう。購読希望の方、また地域の結核予防啓発活動においてこのパンフレットを使用して下さいの場合は、下記までご連絡下さい。在庫がある限り無料でご提供させていただきます。

他にもご用意しております。書籍の注文および出版案内をご希望の方は、公益財団法人静岡県結核予防会までお問合せ下さい。

TEL : 054-261-2512 FAX : 054-261-9474

HPでは最新情報を掲載しております。どうぞご利用ください。

HP : <http://www.jatahq.org>

題字：田中隆(元支部職員) 表紙撮影：村木弘知(元県職員)